三番瀬新聞 アマモ

発行者

5年 小池・美麻（こいけ みあさ）
4年 大谷・深那津（おおたに みなつ）
5年 金光・弥思（かねみつ みこと）

私達がアマモという海草に注目してこの新聞を書いた訳、それはアマモに関する講座や観察を通してアマモは三番瀬の生き物に必要だと気付き、守りたいと思ったからです。私達のがんばりが他の人にも伝わってアマモがふえたらいいと思います。

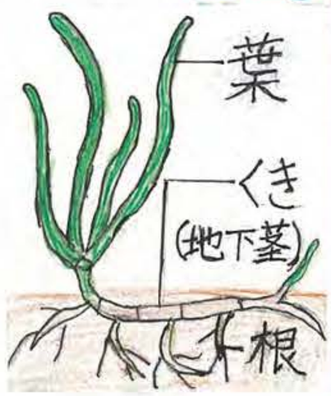
海のゆりかご「アマモ」

アマモは海の浅く、波のおだやかなところなどに生えています。海に生える藻ではなく海に生える草で「うみくさ」と読んだりもします。

アマモは花を咲かせ実をつけます。そして、種子で増えるのです。

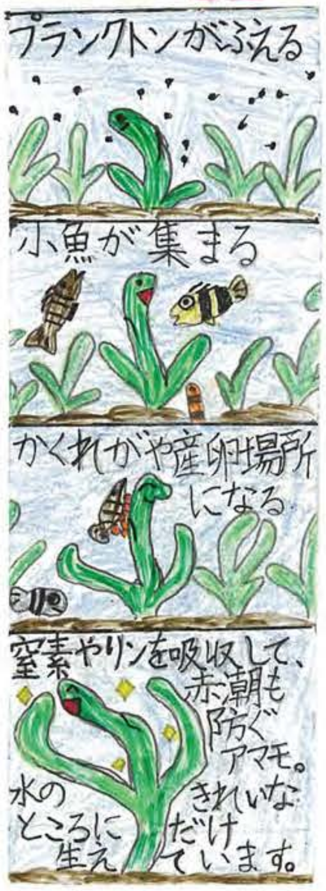
そんなアマモのもう1つの呼び名は、「リュウグウノ　オトヒメノ　モトユイノキリハズシ」。植物名で1番長いのです。

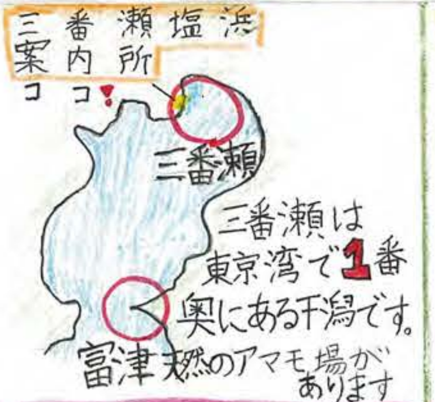
30年前には三番瀬に広いアマモ場がありましたが、今はほとんどありません。



▶アマモはこのように生えています。

アマモがいると…


プランクトンがふえる
小魚が集まる
かくれがや産卵場所になる
窒素やリンを吸収して、赤潮も防ぐアマモ。
水のきれいなところにだけ生えています。



三番瀬は東京湾で1番奥にある干潟です。

富津天然のアマモ場があります

実際にアマモを見てみたい人は葛西臨海水族園の東京湾39番水漕でも会えます。

インタビュー

私は12月に元海苔漁師の篠田さんにアマモについてインタビューしました。「昔は三番瀬の3分の1がアマモ場で太く元気なアマモが沢山あって、カニやウナギやカレイ、サヨリがたくさんいたよ」。

またアマモは栄養分が高いため農作物の肥料にもされるくらいいっぱいあったそうです。篠田さん「昔はアマモ場があったから水に栄養があってきれいだったな」とおっしゃっていました。

アマモを移植しました!!

3月に三番瀬にアマモの苗を移植しました。根に特別なねんどをつけて海に植えつけました。なぜねんどをつけるかというと、アマモが海に流されないようにおもしになっているからです。

さむかったけどがんばって植えました。

私たちが植えたアマモはなんと千株から十五万株まで増えました。

フロアガイドに挑戦

私たちは夏休みに三番瀬塩浜案内所でアマモ水そうのガイドをしました。案内所に来ていたお客さんは興味深く聞いてくれました。そして一番お客さんが楽しそうに見ていたのは私たちが作ったアマモ場にいる生き物がめくってわかるボードでした。

アマモ場ってどんな所？

このボードでアマモのことがみんなに伝わるといいな

天然アマモを見てきたよ

in富津

7月、私達は同じ日に行った富津で採取したアマモとコアマモを水槽に植えました。富津の海は静かでおだやかでアマモも緑が多く元気で大きな群落になっていました。天然のアマモはとても大きくアカエイやワレカラ、ホヤ等たくさんの生き物を観察できました。

▲水槽に植えているところ。本物(?)そっくりになるようがんばりました。

アマモを知ろう!ワークショップ

アマモのワークショップではアマモに初めて出会う人が多く、興味津々でした。アマモの観察をするとエビやカイなどいろいろな種類の生き物が沢山いて海のゆりかごだと実感しました。体験した人は「アマモはニラみたい」と感じる人が多かったようです。

トレーの中の植物がアマモです。

私たちの感想

アマモ場でイカの卵を見ました。生き物の大切なすみかを私達が復活させたいな。　美麻

アマモはすぐにエコにつながらなくても、生物が増え将来のエコになります。　深那津

私はこの新聞を作って今と昔のさにおどろきました。昔も今も変わらない物を守っていきたいです。　弥思